

こんにちは

会社訪問記

産業廃棄物事業は、地域の文化事業です。

株式会社山本建材(名古屋市西区)

戦後の激動期の昭和22年に創業し、45年の歴史を誇る建材業界の老舗的存在、株式会社山本建材。公共事業を主体にご活躍される山本金一社長にお話をお伺いしました。

—まず、営業内容を教えていただけませんか。

『当社の営業内容は、大きく4つに分かれています。建築資材や土木資材、セメント、生コン等を販売する販売部門、建廃部門、重機工事、解体工事などの工事部門、生コンやコンクリート製品を製造する製造部門です。建廃事業は、これらの部門から排出される廃棄物を当社で処理してほしいという要望が高まったことが、そもそものきっかけ。営業主体は建材の販売です。』

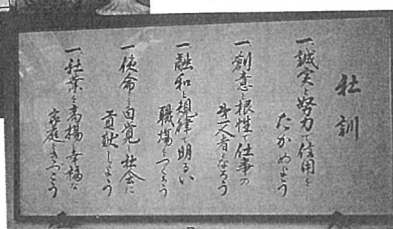
—産廃事業に対してどのような姿勢で臨まれていらっしゃいますか。

『現在、建設廃材が非常に多くなってきており、たんにお得意先から頼まれたから処理をするというスタイルでは、もう対応がきかなくなっていると思います。やはり、産業廃棄物の適正処理をいつも念頭に置いた姿勢を持つことが大切です。もちろん、社員にも同様の意識を持たせるよう指導しています。』



山本社長

社訓



社名/株式会社山本建材 所在地/名古屋市西区康生通1丁目26番地 代表者/山本金一 設立/昭和22年 社員数/グループ200名(建材・重機・建廃70名) TEL/052(521)7331(本社) 保有車両/130台 事務所/本社・師勝工場 系列会社/山建運輸株式会社、山建商事株式会社、山建生コン株式会社 営業種別/収集・運搬、埋立て最終処分、取扱物品目/燃えがら、廃プラスチック、木くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、汚でい、建設廃材

—社長にとって会社とは、社員とは、何でしょうか。

『会社とは、社長一人の責任において機能するのではなく、社員全員の協力によって発展させ、収益を配分するもの。私は常に、自分が経営者になったつもりでやれ、と言っています。各部署毎に競合し、しのぎを削る。業績が上がった場合は、特別表彰を行っています。つまり社員とは、いい意味での私のライバルといえるでしょう。』

—福利厚生や休日はどのようなになっているのでしょうか。

『年1回、慰安旅行を実施しています。行先は海外であったり、国内であったりといろいろです。休日は、日曜・祝祭日と第2土曜日と決まっています。以前は交替制だったのですが、やはり休日はしっかりと決めておこうということで、今年から実施しています。』

—将来はどのように事業を展開していくご予定ですか。

『先程も言ったように、建設廃材が増えていることもあり、建廃事業が将来の柱になっていくでしょう。建築資材、土木工事を業とする者にとって、建廃の適正処理を行わなければ、おそらく将来性は見い出せないでしょう。建設廃材のリサイクル、減量化はいわば私たちの責務ではないか。これは、お金がかかってもやり遂げなくてはならない大事業だと考えています。信念なき会社は、けっして発展はしないはずです。』

産廃業は地域に密着した会社でないダメ、と語っていた山本社長。しっかりと将来の展望と信念の持ち主でした。